

# 家塵ダニアレルゲンの特性と回避指導の実際

*Allergens from house dust mites and its avoidance*

福富 友馬

Yuma Fukutomi

国立病院機構相模原病院臨床研究センター診断・治療薬開発研究室室長

## Summary

わが国の室内環境で検出されるダニでアレルギーの原因として問題になるものはヤケヒョウヒダニとコナヒョウヒダニの2種である。両者ともにチリダニ科の近縁種であり互いに交差抗原性が高いため、アレルギーとしては両者を区別する必要はない。室内環境のダニアレルゲン汚染の指標としては、室内塵1グラム当たりの両アレルギーのグループ1アレルギー量の合計値、Der 1量(μg/g dust)を用いることが多い。これらのダニによる室内環境汚染と曝露は吸入性アレルギー疾患の発症、増悪の重要な危険因子であり、特に高温多湿なわが国はダニの高濃度汚染地域であり、その臨床的重要性はきわめて高い。これらのアレルギーの回避指導としては、特に寝具の対策が重要である。週に1回のシーツ交換と布団の掃除機掛けを行えば、寝具のダニアレルゲンレベルの減少が期待できる。

## Key words

ヤケヒョウヒダニ, コナヒョウヒダニ, Der 1, 寝具, 喘息, アレルギー性鼻炎

## I 吸入性アレルギー疾患の原因となるダニ種

世界から約4万種を超えるダニ類が記載されているが、主な室内生息性のダニは10種前後で、その中でも、わが国の一般家庭において問題になるダニとしては通常、チリダニ科のヤケヒョウヒダニ(*Dermatophagoides pteronyssinus*)とコナヒョウヒダニ(*D. farinae*)の2種である。チリダニ科のダニは、塵埃や寝具に含まれる人の垢やフケ、食品片、昆虫の死骸などを餌として繁殖する。チリダニは「①温度20~30℃, ②湿度70%以上, ③産卵に適した潜伏場所がある」という条件を満たした室内環境で発生しやすいため、物品が多く、通気が悪く、十分に掃除ができていない住宅で恒常的に繁殖する<sup>1)2)</sup>。このようなチリダニ科のダニを室内塵ダニ(house dust mite)と呼ぶ。

一方、コナダニ科、ニクダニ科のダニは穀物倉庫などで大量発生することから貯蔵庫ダニ(storage mite)と呼ばれる。このグループのダニは農家などの職業性アレルギーの原因として報告が多いが、中南米や東南アジアでは室内環境アレルギー